



伊豆新聞 下田支社
下田市東本郷2-9-15
〒415-0035
電話0558(22)2555
FAX0558(22)2556
松崎支局
電話0558(42)3225
FAX0558(43)0483

伊豆新聞本社
〒414-0054
伊東市鎌田1290-6
電話0557(36)1234

伊豆新聞ニュースサイト
<http://izu-np.co.jp/>

要介護者の旅支援浸透

トラベルヘルパー 11月で3周年

東伊豆



トラベルヘルパーの案内でキンメダイのさばき方を見学する利用者。東伊豆町稲取の伊豆漁協稲取支所（昨年3月16日実施のモニターツアー）で撮影

要介護者の旅行や外出の支援を行う東伊豆町奈良本の「トラベルヘルパーセンター東伊豆」（吉間厚子代表）が今秋、前身である同町観光協会外出支援サービスマ部の発足から3周年を迎える。利用者数はまだわずかだが、ヘルパーの介助で温泉入浴などを楽しんだ高齢者が発する「生きていて良かった」の一言に関係者は感激しきり。加速する高齢社会を見据えて「旅の夢のお手伝いをしていきたい」と張り切っている。

同センターは、国の高業創出調査事業の助成を輪者外出支援サービス産一受けた町からの委託で観

かった」「ぜひまた来たい」などと漏らす人が少なくないという。

現在のスタッフは登録ヘルパーなど5人。行政からの助成が終了した今年4月に合同会社として再スタートを切った同社は従来の着地型に加え、将来的には発地型の旅行支援も手掛け、伊豆地区から旅行に出掛けたいという人の旅行のプラン作りや支援を行っていきたいとしている。

吉間代表は「利用者と家族の感動、感謝の言葉に触れて私たち自身も手応えを感じている。高齢化によって旅行や外出のニーズはますます高まっていくと見られ、利用者

光協会が2010年11月に一部門として設立。外出支援事業を全国展開する「あ・える倶楽部」（本社・東京都渋谷区）と提携し、登録したホームヘルパー2級の有資格者3人をトラベルヘルパー（外出支援員）として育成して12年度から本格的に業務を開始した。

これまでの利用件数は初年度が4件、12年度が24件、本年度が8月末までに10件。同倶楽部から支援要請のあった要介護者らを同町など伊豆各地で待ち受け、温泉入浴の介助を中心に観光の同行・支援などを行っている。利用者には温泉旅行を諦めていたという人も多く、支援員の手厚い介護と親切な対応に感激し、夢だった露天風呂に浸かって「生きていて良

の夢の実現のために頑張っていた」と話した。